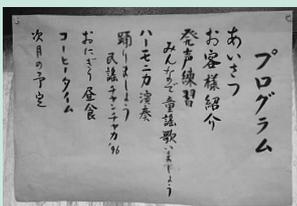




11月15日、12月の催しの準備会が行われ、スタッフが集合。左から渋谷さん、内田喜世子さん、岩本さん、諸星さん、今村さん、柳下さん、藤本竜子さん、宇田川信子さん、今長みつ子さん、荒井三枝子さん、右端奥が鈴木トモさん、手前が岩瀬恵美子さん。みんな、歩いて来ることができる距離に住んでいます。催しは、クリスマス会に決まりました



毎回、当日のプログラムが室内にはり出されます。昼食やコーヒータイムも、大切なおしゃべりの時間になります



玄関に置かれている、花に囲まれた看板。個人宅ならではの演出です



玄関を入ったところに、1年間の活動を記録したアルバムがありました

「ひとときプリティサロン2005」

スタッフは、77歳から55歳までの12人。30年ほど前に引っ越してきて、子どもやママさんバレーボールを介して知り合った皆さんが中心です。

昨年6月、岩本登美子さん（70歳・豊田町1丁目）、今村侑子さん（67歳・同）、柳下美和子さん（63歳・同）が、市主催の「地域福祉ワークショップ」に参加しました。そこで聞いたのは、「身近に集まれる所があったら、どんなにいいだろうか」という、参加者の皆さんの意見でした。「あいさつするだけでなく、近所の人どうしがもっと気楽におしゃべりする集まりをしたいと考えていました。そのためなら自宅を開放してもいいという柳下さんがいたので、賛同した仲間で立ち上げることにしました」と岩本さん。このワークショップで、自分たちが目指す方向が、はっきりしました。

昨年10月8日、「ボランティアする、しないなどと大げさな事ではなく、自分が楽しければ周りの人も楽しいのではないかと」同サロンが始まりました。月1回、第2土曜日の午前10時から午後2時に、柳下さん宅を開放。気軽にサンダル履きで集まって、おしゃべりをしようという趣旨の下、参加者とスタッフを合わせて、常時20人ほどの皆さんが集まります。参加費は1回200円。「公民館に行けるうちはまだいい、いつか行けなくなる日が来る」と、老後の生活を考えるようになった女性を対象に、歩いて来ることができる距離に住む方の仲間づくりを目指しています。

若手のスタッフに話を伺いました。渋谷房子さん（56歳・同）は、「高齢の参加者から、人生で10のうち、3つがよかったらいい人生だと聞いて、ことばの重みを感じました。勉強になります」。「ここには、ほかでは味わうことのできない楽しさがあります。みんなと話が合うので、年齢差を感じません。もっと、若い方にも参加してもらえれば」と、諸星千恵子さん（55歳・同）。

地域福祉計画
地域福祉を総合的・計画的に推進するため、市町村に策定が求められているのが「地域福祉計画」です。
「川越市地域福祉計画」では、「みんなでつくるふれあい支え合いのまち川越」を基本理念に掲げました。基本理念の実現のため、「地域福祉の意識づくり」「地域福祉を担う人づくり」「ふれあい・支え合い・助け合いのしくみづくり」「地域の社会資源を活かしたネットワークづく

などが生きがいづくりの場を提供するのは、「共助」になります。市などの公的機関が行う福祉サービスは、「公助」です。
まずは、それぞれができること、決められたことを分担して行います。そして、時にはみんなで連携することにより、何か問題が起こったとしても、今までよりも早く解決に向かっていくことができます。このような仕組みは、障害者の皆さんや子どもたちにとっても有効であると思われ



体操代わりに、速いテンポの民謡を流しながら踊ります。部屋いっぱい人の輪ができて、笑顔がこぼれます



10月7日は「プリティサロン」を開設して、ちょうど1年。「高階なかよしハーモニカ」の皆さんの演奏で、お祝いました

参加者から……

まさかの時 心強いですね

こんの けいこ
金野馨子さん

(71歳・豊田町1丁目)



金野さん(右)と
夫の英彦さん(75歳・左)

3年前の10月、一人息子を亡くしました。落ち込んでいたときに、近所の方から「ひとときプリティサロン2005」を立ち上げると聞き、第1回から参加しています。

若い人と話しながら、お手玉やあやとりをしたり、童謡を歌ったりしているうちに気持ちがなごんできて、心を開くことができるようになりました。「若い人とつきあい、若さをもらって帰ってくる」、そんな気分です。今では心底から笑えるようになりました。月1回の開催日が、待ち遠しいですね。

「プリティサロン」に参加するようになってから、あいさつを交わす方が増えました。夜中に夫が階段から落ちたときには、スタッフの1人がすぐに駆けつけて、いろいろ心配してくれました。何かあったときに、近所で助け合えると心強いですね。

り」「安心して生活できる地域づくり」の五つを、基本目標に定めています。

同計画では、自治会連合会の支会単位に組織されている二十二の地区社会福祉協議会を、基礎的な地域の単位としました。

今年度から五年間単位で、見直しをしながら同計画の実現に向けて、さまざまな施策を行っていきます。

今年度は施策の一つとして、地域の皆さんが中心となって行う福祉活動を支援するため、「地域福祉活動補助金交付制度」を設けました。そして、十六団体に補助金を交付しました。二ページと三ページで紹介している、和道文化クラブの「たまり場小江戸せきれい停」と、上の「ひとときプリティサロン2005」も交付団体です。

さまざまな活動が各地区で始まり、地域に住む皆さんが積極的に参加して、できることをやっていったなら……。川越は、市民の皆さんすべてが、さらに生き生きとして、楽しく暮らせるまちになっていくことでしょう。